

報告事項 イ

「土曜授業を考える集い」の開催結果について

「土曜授業を考える集い」の開催結果について、別紙のとおり報告します。

平成26年1月17日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

## 「土曜授業を考える集い」の開催結果の概要

小中学校課

### 1 目的

土曜授業をめぐる動向や最新の情報、先行実践の紹介等をもとに、子どもたちの土曜日の教育環境を充実させるための土曜授業の在り方について理解を深める。

2 期 日 平成25年12月21日（土） 14:00～16:30

3 会 場 新日本海新聞社 中部本社（2F 日本海ホール）

4 参加者 132名

内訳	小中学校教員	86人
	高校・特別支援学校教員	10人
	PTA・市町村教育委員会等	36人

### 5 内容

(1) 受付 13:30～14:00

(2) 趣旨説明 14:00～14:20

(3) 実践紹介

発表① 14:20～15:10

〈発表者〉京都府教育庁指導部学校教育課学力担当課長  
京都府教育庁指導部学校教育課総括指導主事

発表② 15:10～16:00

〈発表者〉埼玉県神川町教育委員会教育長  
埼玉県神川町教育委員会指導主事

(4) 質疑応答 16:00～16:20

(5) 閉会 16:20～16:30

### 6 参加者の感想等（詳細は別添）

- ・多くの参加者が土曜授業の在り方がよくわかったという感想を寄せており、具体的な実践事例の紹介を聞くことは、参加者にとって、土曜授業のイメージをもつ上で大変参考となったようであった。
- ・県が土曜授業の方向性を示すことを望む声がある一方、学校や地域の実情を踏まえた賛否双方の様々な意見があり、実施の可否や実施する場合の内容等について地域で十分に議論が行われることが大切と思われる。

## 平成25年度「土曜授業を考える集い」アンケート結果

## 1 本日の集いは参考になりましたか。

4 (とても参考になった)	3 (参考になった)	2 (あまり参考にならなかった)	1 (参考にならなかった)	未記入	アンケート記入者	参加者
16人	75人	4人	0人	8人	103人	132人
16%	72%	4%	0%	8%		

## 2 ①趣旨説明について(主なもの)

- ・すべては子どものためという目的が分かった。
- ・県教委として土曜授業をどう考えているのかが詳しく聞きたい。
- ・理念が見えない。土曜日に授業や教育活動をするための理念と実施に向かうための理由付けは、全くつながらないことが分かった。
- ・現在の教職員の勤務の過密さから、新たな教育活動の創造より、現在の教育活動の充実のための活用の方向性であってほしい。
- ・土曜授業は「市町村単位で異なる対応」という考えで本当によいのか。
- ・「子どもの生活時間の変化」が要因という東京等の状況と鳥取県の実態は大きく違うのではないか。
- ・特別支援学校での実施については、個別対応のあり方についての検討も必要。

## ②実践紹介について(主なもの)

- ・教員への負担感は必ず増える。そのあたりの対策を考えていくべき。
- ・教育課程外、教育課程内の両方の発表があり、参考になった。
- ・実施までに、丁寧な事前調査と協議会等により課題解決をしていたことが分かった。
- ・京都の勤務体制、神川町の時間の運用など取り入れられそう。
- ・時間割の工夫により、平日の放課後にゆとりが生まれることが分かった。
- ・授業時間数が減った総合的な学習の時間を平日に充実させることは多忙感を生むと考えると、土曜日にゆとりを持って取り組むことは理にかなっている。
- ・「地域で生きる」ことをめざす土曜授業にしたい。(特に特別支援学校の子どもたち)
- ・学校が地域連携を目的にしている、受け皿がない場合もある。
- ・学校や地域で考えたらよい。
- ・地域との関わりについては、現在も公民館主催で行われている。土曜授業開催にあたっては、公民館行事との重なりを考える必要がある。
- ・その地域の子どもをどう育てたいかが、やはり基本となる。
- ・「子どもたちに何をねらうのか」を中心に地域の実態に応じて自校でも工夫した教育活動を考えていきたい。
- ・内容については、学校主体の土曜授業でないとできないのかどうか疑問に思った。公民館事業との連携でもできそうな内容も多い。
- ・内容的に特に土曜日に行く必要性をあまり強く感じられなかった。
- ・何のための土曜授業なのかをはっきりとさせる必要がある。
- ・小中連携にもよい機会として活用できる。
- ・土曜授業について保護者と教職員の意識に大きな差がある。
- ・教職員の週休日の振替の取り方が難しい。
- ・イベント的な活動は、教育課程上、どの教科・領域に位置づけられるのか。子ども会活動や公民館行事など(社会教育的なもの)を学校に持ってきているように感じる。

### 3 その他

- ・五日制の趣旨は何だったのか。学校・家庭・地域の3者の連携とあるが、もっと地域の受け皿、家庭の教育力の推進が必要。
- ・PTA等、学校職員以外の方とのディスカッションできる場面があればよかった。
- ・県教委との意見交換の場があればよかった。
- ・県立、市町村で実施する意向があるなら、事前にそれぞれ地教委レベルでこうした公聴会を開くべき。
- ・保護者、地域、教職員の意見を聞くと同時に、丁寧に説明した上で導入を決めることが大切である。
- ・振替は、過労防止という観点からも、長期休業中ではなく、近いところでとるべき。
- ・現状として、長期休業中の振替のまとめ取りはかなり困難。
- ・教員の多忙感解消のために、土曜授業実施の場合は加配をつけてほしい。
- ・子どもたちの課題やつきたい力に即した学校教育でしかできない教育活動として土曜日を有効活用することが望ましい、
- ・多くの学校で、子どもの学びの充実のために、土曜授業が活用されることを望む。
- ・県として、どのような方向で、具体的にこれから進めていくのか今後示してほしい。
- ・校長を対象とした県教委の土曜授業に対する考えの説明会を先に行ったのか。
- ・長期休業日を減らして、授業日や週時間数を増やして教育活動を充実させているのが現状。特に土曜日に授業を行う必要は無い。
- ・土曜授業がどこをねらいとして実施するのかという点を共通理解しておく必要がある。
- ・土曜授業で平日の勤務の負担軽減につながる事が確約できれば実施も意味がある。
- ・「土曜の望ましい過ごし方」とはどういうことなのか。考え直すべき。  
「よりより過ごし方=学校」ではない。
- ・地域の課題解決に向けた新しい取組として、児童生徒がわくわくするような内容を考えたい。
- ・市町村単独の取組ではなく、県全体で取り組まなければ実現・効果は難しい。
- ・現在、時間数は確保され、同等の活動は行っているのだから、さらに土曜に授業を行う必要性を感じない。
- ・子どもの休養日が1日となり、子どもの健康面が心配。
- ・学校週五日制において、結局家庭・地域では子どもたちを受け入れられず、学校が関わらなければ無理であったということ。
- ・3年生以下の6校時は大変。神川町のような考え方で土曜授業もあると思うが、勤務の振り替えが課題となる。
- ・26年度から実施を考えている市町村にとって、この会は遅い。実施に向けて県としての働きかけが必要。
- ・学校ごとに地域連携推進委員会を設置し、検討が必要。
- ・土曜授業の趣旨内容を精査して、元来学校教育の中ですべきことに限定すべき。